

ミッション(使命)		●全ての子どもの学びを保障する。 ●全ての子どもの命を守る。														
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切に子ども ●命を大切に子ども														
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。														
中期経営目標	何ができるようになるか(アンケート短期目標値)	何を学ぶか(資質・能力)	どのように学ぶか実施するか(手立て)	7月末肯定率	12月末肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価							
めざす児童像	思いやりのある子ども	●自分の好きなところを見つけることができる。(100%)	自己理解力 他者理解力	●「やくそくノート」の活用を図る。 ●道徳科において「相互理解・寛容」を重点化する。	児 76%	児 81%	91% A	【いつ】 2学期に 【だれが】 学習指導主任が 【どこで】 【何を】 各学年の児童が取り組んでいる自主学習の例を 【どうする】 家庭に通知する。その際、家庭学習ノートは、必ず家の人に採点してもらったり、サインしてもらったりして、取り組みを確認するようお願いをする。	●2項目ともA評価であった。しかし、短期目標に届かなかった。  ・次年度は、100%には達していないのでそのまま継続する。 ・手立てを具体的に、また、意識できる働きかけをしていく。	●「友だちと学ぶことができる」や「自主学習に取り組むことができる」項目のアンケート調査結果はよいが、テスト結果については低いように思うので、今後とも学習指導を充実させて欲しい。 ●学力ばかりに目を向けるのではなく、人間性を重視する教育にも力を入れて欲しい。 ●挨拶ができる子供を育てて欲しい。						
		●友だちのよいところを見つけることができる。(100%)			保 91%	保 88%										
	自分から学ぶ子ども	●友だちと学び合うことができる。(90%)	探究心	●授業ごとに振り返りをして記録に残す。 ●家庭と連携し、家庭学習を充実させる。	児 92%	児 97%					91% A	【いつ】 2学期に 【だれが】 学習指導主任が 【どこで】 【何を】 発問を吟味する手立てやどんな場面で学び合いができるのかを 【どうする】 研修で深める。	●2項目ともA評価であった。  ・1つ目は、教職員の肯定率が低いのでそのまま継続する。 ・1つ目の短期目標値を95%に上げる。 ・2つ目は、保護者の肯定率が低いのでそのまま継続する。 ・2つ目の短期目標値を90%に上げる。			
		●自主学習に取り組むことができる。(85%)			保 95%	保 95%										
	元気な子ども	●進んで楽しく体を動かすことができる。(90%)	自立自律力 自己管理能力	●体育の充実、共遊の活用を図る。 ●養護教諭、栄養教諭との授業を充実する。	児 93%	児 91%								92% A	【いつ】 2学期に 【だれが】 学習指導主任を中心に担任が 【どこで】 【何を】 ・学年×15分を ・全学年が毎日できるようにすることを ・自分で決められない子に対しては教師主導で行うことを ・児童クラブの協力を得ることを ・学習時間を明確にすることを ・やっている子の評価を ・自主学習のネタを 【どうする】 明確にする。	●「元気な子ども」では、2項目ともA評価であった。  ・1つ目は、短期目標値を95%に上げる。 ・2つ目は、短期目標の文言を具体的な文言に変える。例えば、朝ごはんの内容についてや好き嫌い、1日3回歯みがきをするなどもう少し具体的な文言を入れる。
		●健康な生活習慣を意識して生活することができる。(90%)			保 91%	保 92%										
	児 94%	児 94%	92% A													
	保 94%	保 93%														
	児 92%	児 96%	91% A													
保 94%	保 93%															
児 93%	児 92%	92% A														
保 85%	保 87%															
児 94%	児 89%	92% A														
保 94%	保 87%															

ミッション(使命)		●全ての子どもの学びを保障する。 ●全ての子どもの命を守る。																
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切に子ども ●命を大切に子ども																
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。																
中期経営目標	何ができるようになるか(アンケート短期目標値)	何を学ぶか(資質・能力)	どのように学ぶか実施するか(手立て)	7月末肯定率	12月末肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価									
めざす学校像	安心できる学校	●誰かに相談することができる。(80%)	行動力	●学期ごとに教育相談を実施し、記録を残す。	児 86%	児 87%	94% A	【いつ】 2学期から 【だれが】 担任が 【何を】 悩みがなくて相談していない場合も考えられるので、アンケートを取る際に、「悩みがない」「悩みがあるけど相談できない」を【どうする】 分ける。その上で、教育相談期間に、児童は相談相手を選択できるように希望を取り、担任以外にも相談しやすい場を設定する。教育相談期間には、ロング昼休みを増やし、時間を確保する。	●2項目ともA評価であった。しかし、2つ目は短期目標に届かなかった。  ・1つ目は、短期目標値を85%又は90%100%にする。 ・2つ目は、継続する。									
		●学校は楽しいと感じることができる。(100%)		●Q-Uを実施し、その結果を学級経営に生かす。	保 87%	保 90%					教 100%	児 93%	児 94%					
	満足できる学校	●授業がわかる、できる。(80%)	気づく力	●学期ごとにアンケートを実施する。	児 88%	児 91%					94% A	【いつ】 2学期(11月) 【だれが】 担任が 【どこで】 児童と1対1で話す場で(教育相談) 【何を】 児童理解を 【どうする】 深める。	●2項目ともA評価であった。  ・1つ目は、短期目標値を85%又は90%95%にする。 ・2つ目は、短期目標値を90%又は95%にする。					
		●成長を感じることができる。(90%)		●学期ごとに自分の成長を振り返る時間を確保する。	保 87%	保 87%									教 94%	児 90%	児 96%	
	地域とともにある学校	●連携した教育活動ができる。(90%)	コミュニケーション力	●連携予定の教育活動を教育課程に盛り込む。	保 93%	保 97%									96% A	【いつ】 2月期 【だれが】 授業を行う教員が 【何を】 •何がわからないのか?を明確にし、改善策を立てることを •理科では少人数での実験を行うことを •わからないことに対しての補充や復習を 【どうする】 実施する。	●2項目ともA評価であった。  ・1つ目は、短期目標値を95%にする。 ・2つ目は、短期目標を90%又は95%にする。 ・2つ目は、短期目標が難しいので、文言を考える必要がある。(特に児童用) ・今年度はコロナの影響があり計画通りに行かないことが多かったので、どちらも継続する。	
		●責任を分担し活動することができる。(80%)		●学校、家庭、地域の連携内容を整理する。	児 95%	児 94%												
					保 90%	保 93%	保 90%	保 96%	教 100%	教 95%								

ミッション(使命)		●全ての子どもの学びを保障する。 ●全ての子どもの命を守る。									
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切に子ども ●命を大切に子ども									
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。									
	中期経営目標	何ができるようになるか(アンケート短期目標値)	何を学ぶか(資質・能力)	どのように学ぶか実施するか(手立て)	7月末肯定率	12月末肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価	
めざす職員像	教育愛のある職員	●子供のよさを認め、伸ばすことができる。(90%)	見取る力	●一人一人のよさを記録し、学級だより等に掲載する。 ●個人の記録等へこまめに記録する。	児 94%	児 98%	95%	【いつ】 2学期から 【だれが】 担任や担当者 【どこで】 学年だよりや学校だよりで 【何を】 子供が楽しく安心して生活している様子を 【どうする】 伝えていく。	●2項目ともA評価であった。	●教師力向上のため、今後も研修に取り組んで欲しい。	
		●子供の困り感に気づくことができる。(90%)			保 89%	保 95%					
		教 100%			教 100%						
		児 92%			児 90%						
		保 84%			保 84%						
		教 87%			教 100%						
	謙虚さのある職員	●相談すること、相談にのることができる。(100%)	包容力	●個別の行事計画書を作成する前に話し合う。 ●教育活動後に反省を行い、次年度の計画を立てる。	児 93%	児 94%	95% A	【いつ】 2学期 【だれが】 担任が 【どこで】 朝の会や帰りの会で 【何を】 クラスの友だちによさを見つけてもらうような活動を 【どうする】 取り入れる。 保護者にも一言書いてもらう。	●2項目ともA評価であった。		
		●他の意見考えを取り入れることができる。(90%)			保 90%	保 89%					
					教 100%	教 100%					
		児 94%			児 96%						
自分から学ぶ職員	●先を見通した教育活動の研究や準備をすることができる。(90%)	研究力	●1ヶ月分の予定(週案など)を作成する。 ●板書計画、環境整備計画を作成する。	児 97%	児 99%	97% A	【いつ】 2学期 【だれが】 各教職員が 【何を】 自分の得意なものや自分の研究・研修テーマを 【どうする】 具体的に持ち、そのテーマの研究や研修を進める。 主的に学びを深める計画を立てる。 校務分掌や担当教科主任との関連も含めて行う。 更に自分の学びたいことに対して学びを深めることで、「自分から学ぶ」目標にせまれると考える。	●2項目ともA評価であった。			
	●板書や掲示物、整理整頓を工夫することができる。(80%)			保 97%	保 98%						
				教 81%	教 94%						
				児 97%	児 97%						
				保 96%	保 99%						
				教 94%	教 94%						

ミッション(使命)		●全ての子供の学びを保障する。 ●全ての子供の命を守る。														
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切にすること ●命を大切にすること														
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。														
	中期経営目標	何ができるようになるか(アンケート短期目標値)	何を学ぶか(資質・能力)	どのように学ぶか実施するか(手立て)	7月末肯定率	12月末肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価						
めざす授業像	主体的な授業	●めあてに対する振り返りを行うことができる。(100%)	見通す力	●めあてと振り返りを必ず記入する ●毎時間、学習過程を掲示する。(見える化)	児 94%	児 95%	94% A	【いつ】 2学期から 【だれが】 授業者が 【どこで】 授業の中で 【何を】 子供の考えを 【どうする】 まとめる時間を意図的に取り入れるようにする。  【いつ】 2学期から 【だれが】 学習指導主任が 【どこで】 現職教育で 【何を】 教職員がどんな課題を持っているのかを 【どうする】 把握し、そのための研修資料を用意し、実態に応じた研修をする。  【いつ】 2学期から 【だれが】 授業者が 【何を】 「ききかたレベルアツプカード」を 【どうする】 意識的に活用していく。	●2項目ともA評価であった。  ・1つ目は、はそのまま継続する。 ・1つ目は、保護者に伝わりにくいので、文言を変える。 ・2つ目は、短期目標値をそのまま継続か、95%又は100%に上げる。	●授業を参観し、子供一人一人を考えた授業を行っていると感じた。 ●授業の一生懸命さを学力に反省できていないことが残念である。 ●臨時休校中は、学校から課題が出たようであるが、今後も臨時休校等、画工が長く休みになる場合は、子供たちが「実施しなければいけない」という気持ちになるような指導と支援をして欲しい。 ●テスト結果だけでは、学力を測ることはできない。是非、答えを導き出す過程に目を向けた指導と支援を行って欲しい。						
		●ゴールを理解することができる。(90%)			保 79%	保 86%					教 93%	教 94%				
	対話的な授業	●友だちの意見を聴くことができる。(80%)	コミュニケーション力	●「話の聴き方」を配付し具体的な指導と支援をする。 ●「友だちへの訊き方」を配付し具体的な指導と支援をする。	児 97%	児 97%					90% A	【いつ】 2学期から 【だれが】 授業者が 【何を】 「ききかたレベルアツプカード」を 【どうする】 意識的に活用していく。	●2項目ともA評価であった。  ・1つ目は、そのまま継続か、短期目標値を90%又は95%に上げる。 ・2つ目は、そのまま継続か、短期目標値を90%又は95%に上げる。			
		●分からないことを訊くことができる。(80%)			保 94%	保 94%								教 88%	教 82%	
	深い学びのある授業	●思考・判断を表現することができる。(80%)	応用力	●毎時間、自分の考えを発表する時間を設定する。 ●「振り返り」に更に学びたい内容を記入させる。	児 83%	児 87%								84% B	【いつ】 次回の学校評価までに、 【だれが】 管理職が 【何を】 アンケートの項目を 【どうする】 改善する。 教師の肯定率を上げるため(上がるかは未知数であるが)に具体的な行為で判断できるようにアンケートの判断材料を明確にする。思考はみえないので、どのように「見える化」とよいか決める。	●2項目ともB評価であった。 ・2つとも短期目標が、児童の実態とあっていないので、具体的な文言に変え、保護者、児童が理解しやすいようにする。 ・1つ目は、短期目標値を85%に上げる。 ・2つ目は、短期目標値を90%に上げる。 ・2項目とも学校課題で重点的に取り組んでいく。
		●学びを広げることができる。(80%)			保 83%	保 81%										
				児 89%	児 90%	保 86%	保 87%	教 88%	教 82%							

ミッション(使命)		●全ての子供の学びを保障する。		●全ての子供の命を守る。					
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切にすること		●命を大切にすること					
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。							
	何ができるようになるか (アンケート短期目標値)	7月末 肯定率	12月末 肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価		
その他	●英語の時間に学んだことを使おうとすることができる。(100%)	児 78%	児 80%	75% B	【いつ】2 学期 毎週水曜日【だれが】清掃ボランティアが【どこで】トイレを中心に 【何を】児童と掃除を【どうする】する。(保護者に、児童は一生懸命掃除をしていることが伝わり、児童も親の目があるので意識が高まる)5 時間目に、引き続き行き届かないところを 掃除してもらう。一斉下校の日にボランティアに来てもらうことで、お迎えの保護者が協力してくれるのではないか。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語と清掃に関しては価が難しい。</li> <li>清掃以外はそのまま継続する。</li> <li>英語は可能ならば項目から外す。外せない場合は、短期目標値を英語も清掃も85%に下げる。</li> <li>「情報の発信」は短期目標値を100%に上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安心できる学校」では、新型コロナウイルス感染症要望対策とともに、火災、不審者に備えた防災訓練にも取り組んで欲しい。更に、メールや電話も使えないことや保護者が迎えに来ることができないことも想定されるので、危機管理マニュアルの見直しも行って欲しい。</li> <li>●通学路の点検もして欲しい。</li> </ul>		
	●道徳の授業で友達の意見を聞いたり、自分との関わりを考えたりすることができる。(100%)	保 71%	保 75%					92% A	【いつ】2 学期から 【だれが】係が【どこで】掃除の時間で【何を】縦割り清掃ができるように計画を【どうする】作成し、実施する。それに伴い、清掃用具を整備する。
	●安全に生活して交通ルールを守ることができる。(100%)	教 75%	教 71%						
	●学校は情報を積極的に発信・提供している。(90%)	児 92%	児 93%	98% A	【いつ】次回のアンケート調査で 【だれが】管理職が【どこで】アンケート用紙の説明リード文で【何を】アンケート項目の『清掃が行きとどき、快適である』の基準を【どうする】明確にする。				
	●学校は清掃が行きとどき、快適である。(90%)	保 95%	保 94%					78% B	【いつ】2 学期以降 【だれが】管理職が【どこで】保護者通知で【何を】全保通者が、年に1度は、学校清掃に関わって頂く内容や教員も保護者も放課後に清掃することや教師は放課後に消毒や清掃を行っていることなどを【どうする】お知らせする。
	●教職員は、保護者に対して誠意をもって接している。	教 100%	教 94%						
	●職員全員が参加して教育課程を編成している。	保 80%	保 79%	94% A					
	●特別支援教育について情報を共有し、充実が図られている。	保 92%	保 94%					94% A	